総合教育センターだより

街路樹

発行第１８７号
令和６年１１月２８日（木）
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町１−４
０２４６（２２）３７０５

11月

「音楽科の授業改善の視点と実践例紹介」

嬉しい出来事があった時、驚くような出来事があった時、旅先で美しい景色に出会った時…。「この気持ちを誰かに、伝えたい！」という思いがあふれてくることはありませんか？

音楽の授業でも、きれいなハーモニーを響かせることができた時、音楽を聴いて感動した時など、子どもたちは「嬉しさや感動を誰かと共有したい！」と思っているのではないでしょうか。ぜひ、子どもたちのその気持ちを大切にして働きかけていきたいものです。

合唱が上手にできて、隣の人と顔を見合わせて話をしている子どもたちに対し、教師が「今の合唱は○○でしたね」と価値付けして授業を進めていくこともできますが、「今の合唱はどうだった？」「どうしてうまくいったんだろう？」などと子どもたちに問いかけてみると、「正しい音程で歌えたから、ハーモニーがきれいになった」「口の開け方を意識したのがよかったのかな」などと、子どもたち自身で気づき、「次はこうしてみよう」という意欲につながっていくかもしれません。

また、鑑賞の授業では、曲を聴いた後に教師が指示を出さなくても子どもたちが話をし始めるという場面をよく目にします。そんな時、「一旦静かにして、感想を書きましょう」と教師が進めてしまうこともあるかもしれませんが、「感じたこと、気づいたこと、考えたことなど、なんでもいいので自由に話しましょう」と、２、３人で話す時間を設けてみると、子どもたちは感動や興奮の熱を保ったまま、感じたことなどを共有できます。さらにその後「どこからそう感じた？」と教師が問いかけることで「出だしがフォルテだったから」「ヴァイオリンの音色が優しかったから」と根拠の考えが出てきて、子どもたちから出てきた言葉を通しながら、音楽的な見方・考え方を働かせることにつながっていきます。

ちょっとした働きかけの工夫が「主体的・対話的で深い学び」につながっていくのではないでしょうか。

「ＳＳＷの活用について」

「スクールソーシャルワーカー（以下、ＳＳＷ）を是非活用ください！」

・・・実際、ＳＳＷには何を頼むことができるのか、支援してくれるのかなど、まだ具体的にＳＳＷについて知らない先生方や保護者の方もいるのではないでしょうか？

近年、不登校、暴力行為、家庭の貧困など、児童生徒の問題行動等については、極めて憂慮すべき状況にあり、教育上の大きな課題を抱える学校が増えている傾向が見受けられます。ＳＳＷは、これらの課題に対し、以下の体制で支援しています。

【配置】

配置	担当地区	SSW数	合計
市配置	平方部・小名浜地区	4名	8名
県配置	市配置以外の方部及び県立学校	4名	

【支援】

社会福祉制度をはじめとする情報や知識、並びに専門的な援助技術を用いて「問題を抱えている」児童生徒と家族や学校、教職員への支援を行う人材です。経済面や福祉面等の相談を切り口として家庭に支援していきます。

５月に行われた特別支援教育コーディネーター研修では、市ＳＳＷを講師として研修を行いました。課題に対し学校内で連携し、解決が難しい場合には関係機関との連携をすることが大切であること、また連携する際に気をつける点等を学びました。

なお、次の点について確認してほしいと思います。

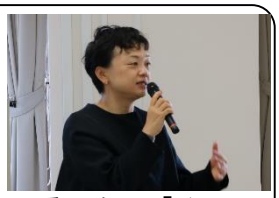
学校は関係機関に依頼する際、保護者との関係性が築けているか。

○ いきなり関係機関につないでしまうと、子どものために動いていることが、マイナスにとらえられてしまうことも考えられること。
○ つなぎ方やつなぐまでの関係性づくりを丁寧に行うこと。
○ あくまでも主体は「学校」。学校とSSWと一緒に考えていくこと。

ＳＳＷを活用する際には、担任は保護者と教育相談を進めるとともに、管理職に相談しながらＳＳＷの存在について紹介した上で、ＳＳＷの活用、相談につなげてください。

少しでもＳＳＷの活用に悩まれている場合には、まずは担当まで一度ご相談ください。

「目指す子どもの姿」の共有を！



10月30日（水）に、小学校教員7名、幼稚園教員12名、保育所職員19名が教職員研修室に集まり、福島大学教授　宗形　潤子先生を講師として、保幼小連携講座が行われました。

前半は「幼保小接続に関わって」と題して、小学校で求められている学びの姿や幼児教育の実態、子どもの権利、架け橋プログラムの理念と推進の仕方について、国の資料や宗形先生が実際に関わっている幼稚園・小学校の取組みを基に、研修者で共有をしました。

後半は、「秋の自然物を使った遊び」をテーマに、「各学校園で、どのような活動をしているのか」「そのときの子どもたちの様子はどうだったか」を伝え合いました。その上で、活動を行っている際に「教師（保育者）として大事にしていることは？」と、日頃の自分の教育活動を振り返る時間を設けました。振り返りの中では「子どもたちが自分のやりたい遊びを充実させられるようにしていきたい」「まずは年長児クラスだけでも小学校に行って交流ができたらいいなと感じました」という考えが出されるとともに、小学校と幼稚園・保育所が同じ視点で（目指す子どもの姿を共有して）教育活動を行っていくことの大切さを実感していることが窺えました。学んだことを基に、さらなる連携・共有が図れることを期待しています。